

@キャンパス—学内外の活動や話題の紹介

小樽商科大学発のベンチャー企業。同大の近藤公彦教授(マーケティング)のゼミが運営する株式会社で、毎年夏に札幌の狸小路で行うはしご酒イベント「NOMIPON (のみぼん)」を手掛けている。

設立は2011年。株式会社を立ち上げたのは「大学の学びを社会の中で実体験すると同時に対外的な責任も明確にする」(近藤教授)のが狙い。会社登記もしており、ゼミ生は「社員」も兼ねる。経済活動を通じた地域貢献が基本で、これまで高校生向けの大学情報サイトの運営や印刷会社と連携して小樽の魅力などを発

信。今は「NOMIPON」に集中している。

イベント名はお酒を飲むこととタヌキの「ぼんぼこ」に由来。参加飲食店の共通券を作り、学生たちが現地で販売と宣伝を担う。本年度は昨年8月に1週間行い、56の店舗と市民ら約千人が参加した。

学生たちの達成感は大きく、「自分たちの手で一からつくり上げられたのは大きな経験」と話すのは本年度の企画責任者だった小泉大樹さん(3年)。新年度の企画責任者になった岸本隼さん(2年)は「新しい形を生み出していきたい」と意欲を燃やしている。

アイ バックス
小樽商科大学近藤ゼミ 株式会社 i-vacs

代表取締役 小泉大樹さん(3年) 社員29人

企業活動通じ地域貢献



札幌の狸小路で「NOMIPON」を繰り広げる学生たち

勉強と実践の両立に果敢に挑む学生の取り組みをぜひ動画でご覧ください



商大生ゲストハウス

8日オープンイベント 地域住民らと交流会も

小樽商科大の学生が立ち上げた合同会社「ええんちやう」は

8日午前11時から、小樽市内に開業するゲストハウス「順風満帆」(緑1)でオープンイベントを開く。施設の内覧や学生との交流会もあり、参加者を募集

している。

ゲストハウスは築51年の木造2階建て住宅の内装などを改修。同大の猪口純路教授(マーケティング論)のゼミ生が8日から運営する。備品購入費や運営資金の確保へ、インターネッ

トで支援金を募るクラウドファンディング(CF)を活用し148万円を集めた。

イベントではテープカットで開業を祝い、学生やCFの支援者、地域住民ら参加者の交流会もある。学生は「これから地域と一緒に小樽を盛り上げていければ」と話す。参加費千円。申し込みは7日までに、ええんちやうの電子メール(inozemi.sn@gmail.com)へ。(谷本雄也)